

④ 青木が原樹海 溶岩流の上での 1000 年を超える植生遷移を目のあたりにできる貴重な原生林

【概要】およそ 1150 年前に富士山の北西山麓に広がった溶岩流の上に成立した森であり、植物の遷移を実感できる貴重な原生林。残された溶岩洞穴などにより神秘的な雰囲気が漂う。西湖野鳥の森公園から野鳥水飲み場を經由して龍宮洞穴に至り、さらに東海自然歩道までのぼり、同自然歩道を西側に歩き、鳴沢氷穴を經由して富岳風穴までたどる。

【森林の特徴と見所】

青木ヶ原樹海は、およそ 1150 年前、平安時代の貞観 6(864)年に富士山の北西山麓の寄生火山から噴出した溶岩上に成立した原生林。森林樹海は、標高 1000m 付近、厚さ 5~25m に堆積した溶岩上にあり、土壌が全くない溶岩の上に成立した 1000 年を超える一次遷移を目のあたりにできる極めて貴重な原生林である。そここに残された溶岩洞窟、洞穴など地表にはさまざまな造形が生み出され、静寂な樹海をさらに神秘的な雰囲気にしている。樹齢約 200~300 年といわれるコメツガ、モミ、ヒメコマツ、アカマツなどは太い根を地表に張って溶岩を抱き、さらにわずかな土壌を求めて溶岩のすき間に根を下ろしている。

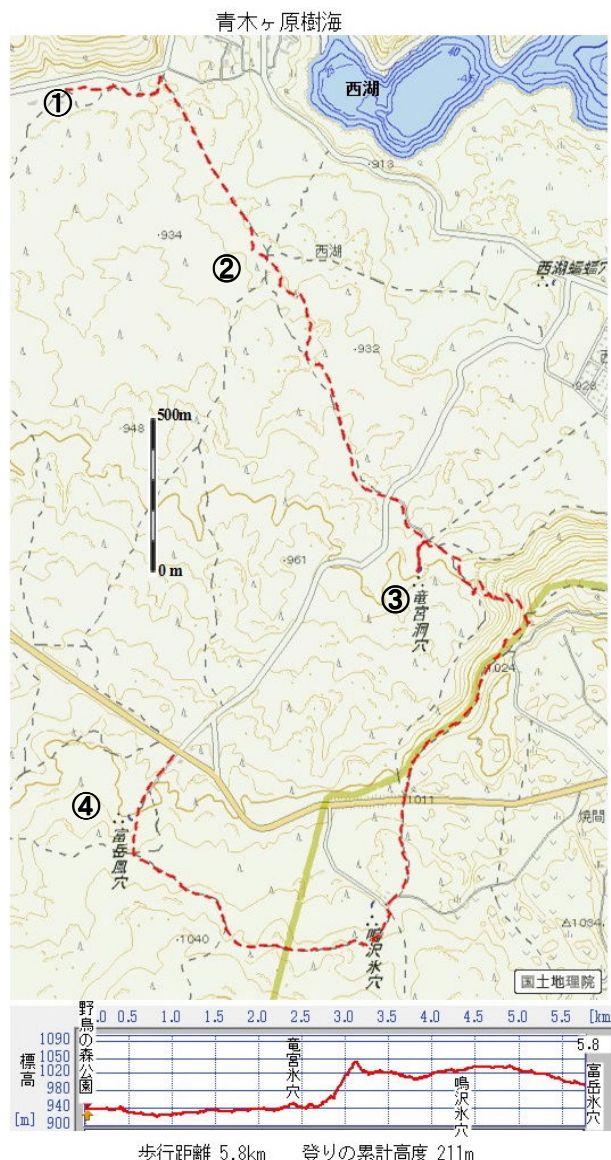
樹海内の高木性の樹木は針葉樹が中心で、その中に遊歩道沿いや林縁には広葉樹（いずれも亜高木・低木状）が混生している。また、ごつごつした溶岩上の林床は豊富なコケ類により覆われているのが特徴。この樹海林は「現時点で極相林に達している」との見解もあるが、「いまだ途中である」との見解が有力であるといわれている。春の新緑の頃、秋の紅葉時期がお勧め。また、コース上には英（はなぶさ）の氷穴、竜宮洞穴（国指定天然記念物）、鳴沢氷穴、富岳風穴もあり、時間の余裕があれば洞穴めぐりも楽しみたい。

【歴史文化】

富士山は、静岡県と山梨県にまたがる標高 3776m の日本最高峰の活火山。その秀麗な山容と懸垂曲線の山容は、古くから日本人に親しまれ、信仰の対象としてされてきた。2013 年 6 月に関連する文化財群（25 件）とともに「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」の名で世界文化遺産に、日本の文化遺産として 13 件目に登録された。

コースの出発地点に近い根場（ねんば）地区は、

西湖畔の美しい富士山を背景にした「かぶと造り」の茅葺き屋根が並ぶ集落であったが、昭和 41 年の台風災害で壊滅的な被害を受け、その姿を消した。現在は、日本のふるさとの原点を体験できる場所として、西湖いやしの里（有料）に「昔懐かしい、ふるさとの原風景」として失われた茅葺き集落を甦らせている。



【コース紹介】

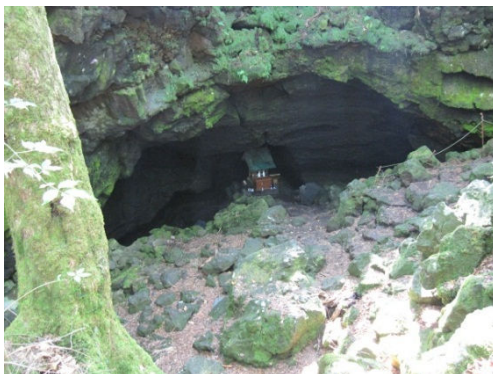
西湖野鳥の森公園①から英の水結を経て、野鳥の水飲み場②にて、竜宮洞穴③方向に向かう遊歩道をたどる。竜宮洞穴で一休みした後、紅葉台に向かう遊歩道を東海自然歩道まで高低差 100m 程を上り、上りきったら東海自然歩道を右に行くと直ぐに樹海と根場地区を望める眺望ポイントに至る。近くには紅葉台の富士山の眺望ポイントもある。樹海域とは異なる植生の中、東海自然歩道を進む。鳴沢水結を経由し、途中、ヒノキの原生林が生育する様子を見ながら最終到着地である富岳風穴④に至る。コース距離約 5.8km、観察時間も含め 3～4 時間の行程。



西湖野鳥の森公園樹海ギャラリー



樹海遊歩道の樹林



竜宮洞穴



竜宮洞穴より東海自然道への上り路



東海自然道から樹海を望む

コースで見られる主な植物等

【木本類】

高木性の樹木は針葉樹が中心で、コメツガ、ヒノキ、ヒメコマツ、アカマツ、ハリモミなどの中に、ミズナラ、ミズメ、ヤマザクラ、リョウブ、コシアブラなどの落葉広葉樹の亜高木が遊歩道沿いの林縁に見られる。ごつごつした林床は深くコケに覆われ、そこにアセビ、ソヨゴ、ミヤマシキミ、ツツジ類などの低木類が見られる。

【一言メモ】

西湖野鳥の森公園は、青木ヶ原樹海に囲まれた樹海公園、約 60 種に及ぶ野鳥観察や森林浴が手軽に楽しめる。ギャラリー内には周辺の自然環境の展示や望遠鏡を備えた野鳥観察の施設、駐車場あり。

野外講座企画のための情報

FS 指数：3B 水平距離：5.7km 211m

トイレ：西湖野鳥の森公園、富岳風穴

昼食場所候補：竜宮洞穴、紅葉台

安全確保上の留意点：竜宮洞穴の手前に車道あり車両に注意、竜宮洞穴～東海自然道に高低差 100 の上り坂

近隣の見所：西湖いやしの里根場